

美術部会 研究の構想（案）

令和元年度～令和3年度

I 研究主題

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための学習指導はどうあればよいか。

II 主題設定の趣旨

これまで美術部会では、「美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める学習指導」に重点を置いて研究を重ねてきた。教科の目標を①美的、造形的表現・創造、②文化・人間理解、③心の教育の三つの視点で捉え、平成28年からの3年間は、「美術の基礎的な能力の育成を目指して」を副題とし、「付けたい資質・能力を明確にした題材、指導計画」、「表現と鑑賞が相互に関連する学習活動」、「指導と評価の一体化」について研究を重ね、成果を積み上げてきた。

さて、新学習指導要領では、美術科の目標を「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成」と定めている。

「造形的な見方・考え方」とは、よさや美しさなどの価値や心情を感じ取る感性や想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点（形や色彩、材料や光などの働きを捉えたり、造形的な特徴等からイメージを捉えたりする視点）で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことである。これは、美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方であり、教科で育てる資質・能力を支える本質的な役割を果たすものである。また、生徒が美術を学ぶ意義の中核をなすものであるとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるにあたり、特に「深い学び」の鍵となるものである。

「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力」とは、造形的な視点を豊かにもち、生活や社会の中の形や色彩等の造形の要素に着目し、それらによるコミュニケーションを通して、一人一人の生徒が自分との関わりの中で美術や美術文化を捉え、生活や社会と豊かに関わるができるようにするための資質・能力のことである。

その上で、美術科が育成すべき具体的な資質・能力について、次の三つの柱で整理した。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表現することができる。「知識及び技能」
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。「思考力、判断力、表現力等」
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。「学びに向かう力、人間性等」

そこで、令和元年度からの3年間は、改訂された目標の趣旨を踏まえ、上記の三つの柱に基づき、その実現に向けて研究を進めていきたい。なおその際、三つの柱は、相互に関連し合い、一体となって働くことが重要であり、別々に分けたり順序性をもって育成したりするものではないことを念頭に置き、三つの柱それぞれの資質・能力について研究を進めなければならない。

III 研究のねらいと内容

1 研究のねらい

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するために、これまでの研究成果や課題を整理し、生徒の実態を踏まえながら、3年間の継続的な研究を通して研究主題に迫りたい。

2 研究内容

- (1) 1年目「知識及び技能」に関する研究
「造形的な視点を豊かにするために必要な知識と、表現における創造的に表す技能」
 - ・造形を豊かに捉える多様な視点を育てる指導〔共通事項〕
 - ・表現方法を創意工夫し、創造的に表す技能を伸ばす学習活動の工夫
- (2) 2年目「思考力、判断力、表現力等」に関する研究
「表現における発想や構想と、鑑賞における見方や感じ方など」
 - ・主題を生み出し、豊かに発想し構想を練る題材の工夫
 - ・美術文化についての見方や感じ方を深める学習活動の工夫
 - ・発想や構想と鑑賞に関する資質・能力を総合的に働かせる学習活動の工夫
- (3) 3年目「学びに向かう力、人間性等」に関する研究
「学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情、豊かな感性や情操など」
 - ・創造活動の喜びを感じ、美術を愛好する心情等を育む学習活動の工夫
 - ・自己の生き方との関わりの中で、心豊かな生活を創造していく指導方法の工夫

美術部会 令和2年度研究計画（案）

I 研究主題

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための学習指導はどうあればよいか。
—美術科で育成することを目指す資質・能力の三つの柱の実現に向けて—

II 主題について

平成29年告示の新学習指導要領では、「美術は何を学ぶ教科なのか」という美術を学ぶ意義が明示され、感性や想像力を働かせ、造形的な視点を豊かにもち、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成が一層重視されている。美術部会では、これまでも「美術の基礎的な能力」を育成することを目指して授業実践に取り組み、指導の改善を行ってきたが、今後さらに、資質・能力の育成に視点を置いた題材の開発や授業内容の検討等を進めることが求められている。

令和元年度より3か年計画で、美術科で育成する資質・能力の三つの柱を、授業実践を通して一つ一つ捉えていき、それぞれの資質・能力を相互に関連させながら確実に育成できるよう研究を進めている。1年目は「造形的な視点を豊かにするために必要な知識と、表現における創造的に表す技能」を特に意識した題材について研究した。鑑賞の活動では、形や色彩、材料などの造形の要素を視点として与えることで、作品を深く理解できた。さらに、個で感じ、思考したことを共有することで、作品に対する見方や感じ方が広がり、自分としての新たな意味や価値をつくりだすことにつながった。また、デザインに表現する活動では、生徒が主題と造形の要素との関わりを意識できるワークシートや、材料や技法による印象の違いが分かる掲示物等を工夫することで、意図に応じて創造的に主題を表すことができた。このように、知識及び技能を意識した実践では、様々な対象や事象を造形的な視点で捉えさせることにより、造形の要素の性質や、それらが感情にもたらす効果などを実感し、理解を深めることができた。そして、個に応じた材料や表現方法を選択するなど、創造的に表す技能を育成することにつながったと考える。

本年度は、「表現における発想や構想と、鑑賞における見方や感じ方など」（思考力、判断力、表現力等）を特に意識した授業実践を通じた研究を行う。発想や構想と鑑賞に関する資質・能力を生徒に適切に育成していくためには、これらの資質・能力を総合的に働かせて学習活動を進めることが大切である。例えば、生活の中の器を制作する題材では、使う目的や条件などを基に、使いやすさや機能（使う人や場を考えた作者の意図）と洗練された美しさ（器の形や色彩、材料から受ける印象）などとの調和について考える。また、焼き物など伝統工芸について学び、美術文化への見方や感じ方を広げる活動を行う。発想や構想するときも、鑑賞するときにも、それぞれの活動を相互に関連させることで、より高い資質・能力の育成につながると考える。

このように、造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなど、学習の中心となる考えを明確にすることにより、鑑賞したことが発想し構想を練るときに生かされ、また発想や構想をしたことが鑑賞において見方や感じ方を広げたり、深めたりすることに生かされる。そのような学習活動を積み重ねることが大切である。

3年目は、「学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情、豊かな感性や情操など」（学びに向かう力、人間性等）を特に意識した題材を開発し、授業実践を行う。

これら三つの柱を意識した授業実践を通して、それぞれの資質・能力を全ての生徒に確実に育成し、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わるという美術を通じた人間形成の一層の深化を図っていきたい。

Ⅲ 研究内容とその視点

1 美術の各領域及び〔共通事項〕の内容に関する研究

- (1) 発想や構想及び技能に関する資質・能力を育成する指導内容を工夫する。
 - ・ 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動
 - ・ 目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動
 - ・ 発想や構想をしたことなどを基に表現する技能を育成する活動
- (2) 鑑賞に関する資質・能力を育成する指導内容を工夫する。
 - ・ 美術作品などの見方や感じ方を深める活動
 - ・ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動
- (3) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、〔共通事項〕を身に付けることができるよう指導内容を工夫する。
 - ・ 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解する活動
 - ・ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する活動

2 指導計画・指導方法に関する研究

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現を図った指導計画を工夫する。
 - ・ 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る指導計画
 - ・ 造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実
- (2) 「A表現」及び「B鑑賞」の相互の関連を図った指導計画を工夫する。
 - ・ 各内容における指導のねらいを実現することのできる題材を設定し、系統的に育成する資質・能力が身に付く指導計画の作成
 - ・ 発想や構想と鑑賞に関する資質・能力を総合的に働かせて学習を深める指導の工夫
- (3) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に〔共通事項〕を位置付けた指導計画を工夫する。
 - ・ 形や色彩などに対する豊かな感覚を働かせて表現及び鑑賞に取り組める学習過程や題材の工夫
 - ・ 造形的な視点を豊かにするための知識を身に付けさせ、実感を伴いながら理解できるような指導方法の工夫
- (4) 「A表現」について、(1)のア及びイと、(2)を関連付けた指導方法を工夫する。
 - ・ 発想や構想に関する資質・能力と創造的に表す技能とが関連し合うことで、相互の資質・能力が高まる指導方法の工夫
 - ・ 描く活動とつくる活動を通して、表現に関する資質・能力を伸ばし、様々な美術表現に親しめる指導計画の作成
- (5) 「B鑑賞」について、時間を適切に確保し、指導を工夫する。
 - ・ 鑑賞と表現との関連を考慮して鑑賞の指導を位置付けたり、独立した鑑賞を適切に設けたりするなど指導計画の工夫
 - ・ 生徒や各学校の実態、地域性などを生かした効果的な指導方法の工夫
 - ・ 造形に関する言葉を意図的に用いて説明したり、話し合ったりする活動の設定

3 評価に関する研究

- (1) 創造活動の喜びを感じられるような指導のための学習評価を工夫する。
 - ・ 自己の表現を振り返り、活動のねらいに基づき、成果と課題を見いだす自己評価
 - ・ 互いのよさを認め尊重し合う相互評価
- (2) 指導の改善を図り、資質・能力の育成に生かす評価を工夫する。
 - ・ 一人一人の学習状況を把握し、その都度、個別指導に生かせる評価方法
 - ・ 育成したい資質・能力を明確にし、学習の成果が確認できる評価資料の累積と活用方法
- (3) 効率的、効果的な評価方法を工夫する。

Ⅳ 研究方法

- 1 研究計画に基づいた実践を持ち寄って協議し、情報交換をして研究を進める。
- 2 研究の成果を日常の教育実践に生かすとともに、研究の継続と累積に努める。
- 3 中教研の組織を十分に生かす共同研究にし、会員の総意を結集した研究になるように努める。
- 4 小学校との情報交換に努め、互いに連携を深める。
- 5 実技研修会や研究会に積極的に参加するなど、教師としての資質・能力を高め、感性を磨くよう努める。

